

渡初冬に銚塩炭を積帰り酒田加茂まで
彌^ヒ是を秋^{アキ}綱^{ツナ}論^ロといふ^{ナリ}贍^{チカ}振^チ鉏^ツの事いふと
考へん

一秋田城

太平記評判左名類例鈔は尚城を陸奥と云ふ
誤なり

職系抄は秋田城とありは是なり又たの方
にゆとり註曰爲出羽外者兼之除目不
任之被宣下也云々除目といふ即ちの人を
めして任官を授けり事なり^{ナリ}由史を以て
考へに秋田は二城ありと一城は今の湊の
城なりへり尚城は上ほりて守ゆ掾目

あり又檜安あり一事を才一と書ふも記を
守は出羽府の^{今の田川郡}の^{のち名なり}城目なりゆは尚城
の目なり掾は雄勝の城目なり目は平鹿郡
よりりりや今の湊の城は檜安の所
なりと記すや^{ナリ}孝長中近秋田城は実季
といふ人尚城を領を代り尚城の産よりて
安東右衛門愛季の男とて姓は安信なり假
名を安右衛門といひ秋田城ゆといふは職
号なりけ成の子孫今奥州三書^{ナリ}の城を領す
五方石安東の半は妻よりは末は任す城ゆ